



No.829

一致団結し 大崎地区の消防操法大会で優勝



8月号の主な掲載記事

- ☑ 令和6年涌谷町建町記念式典 P. 2
- ☑ 笠岳山^{きやうおのおごま}笠峰寺の採燈大護摩供 P. 5
- ☑ 特集 涌谷町のソウルフードが文化庁100年フードに認定おぼろ汁 P. 6

これまでの功績を^{たた}称えて

令和6年涌谷町建町記念式



旧籠岳村と旧涌谷町の合併を記念し、7月15日に実施してきた涌谷町建町記念式典。今年は、祝日の関係で7月12日(金)に実施しました。功績紹介・表彰などの対象者の延べ人数は、功労者5団体16人、スポーツ勲功章5人、表彰5人、褒状2団体9人、感謝状12団体9人でした。今後とも町勢発展へのご協力をお願いします。

《功労者》

国や宮城県などから受けた叙勲・表彰などの功績を紹介

▼叙位・叙勲

故木村達夫さま(教育功労・正六位)、伊藤雅一さま(地方自治功労・旭日单光章)、畑岡茂さま(農業振興功労・旭日单光章)、佐々木一彦さま(教育功労・瑞宝双光章)、市川一夫さま(消防功労・瑞宝单光章)

▼内閣総理大臣表彰 涌谷町消防団さま(令和4年7月豪雨の際に水防活動に尽力した功績)

▼国務大臣内閣府特命担当大臣交通対策本部長表

彰 日野善勝さま(交通安全功労)

▼宮城県知事文化の日表彰 後藤武志さま、畑山寿行さま(消防防災功労)

▼宮城県知事表彰 木村晃弘さま(消防団員としての永年勤続功労)、仙石健治さま(国民健康保険事業功労)

▼宮城県知事感謝状 大平良子さま(涌谷町婦人防火交通安全クラブ連合会員としての永年功労)

▼宮城県知事感謝状 涌谷町婦人防火交通安全クラブ連合会さま(無火災地域推進功労)

▼宮城県知事褒状 佐々木利子さま、高橋俊吾さま

ま、手話の会ダンボさま
(多年にわたる社会福祉
功労)、涌谷町健康推進
員協議会さま(民生安定
功労)

▼東北管区警察局長東北
防犯協会連絡協議会表彰
涌谷町防犯協会西支部さ
ま(優良防犯団体)、白幡
晋さま(防犯功労)

▼全国社会福祉協議会会
長表彰 高橋俊吾さま
(社会福祉協議会・民間
社会福祉団体功労)

▼宮城県防犯協会連合会
宮城県警察本部長表彰
千葉晃さま(防犯功労)

▼法務省仙台法務局長感
謝状 松本美由紀さま
(多年にわたる人権擁護
委員としての功績)

《スポーツ勲功章》

全国大会優勝や世界大
会出場などの栄誉を称え
涌谷町から勲功章を贈呈
▼特別全国障害者スポー
ツ大会「燃ゆる感動かご

しま大会」に出場し立ち
幅跳び組ごとで優勝本
郷凌久さま(写真右)

▼2023年少林寺拳法
世界大会 in Tokyo
o, Japan 団体演武
の部に出場 杉山漣さま、
大上航也さま

▼2023年少林寺拳法
世界大会 in Tokyo
o, Japan 団体演武
ファミリー部門に出場
北田陽之さま、北田千夏
さま(写真右)

《表彰》

これまで各分野におい
て多年にわたる功績を残
されてきたことに対して
涌谷町から表彰

▼消防功労 野田悟さま・
畠山幸雄さま・菅野裕二
さま、遠藤亮さま、浅野
浩さま(涌谷町消防団員
としての功績)

《褒状(受賞時の学年)》

各小学校・中学校から

推薦された文化・スポー
ツなどで顕著な成績を残
した団体・児童・生徒を
対象に表彰

▼永年のボランティア活
動により厚生労働大臣賞
を受賞 涌谷町立篁岳白
山小学校さま(写真左)

▼第42回全日本小学生バ
ンドフェスティバル東北
大会銀賞 涌谷第一小学
校マーチングバンドさま

▼第52回マーチングバン
ドバントワーリング東
北大大会銀賞 涌谷第一小
学校マーチングバンドさ
ま

▼令和5年度宮城県書き
ぞめ展硬筆の部部長賞
甲斐心咲さま(涌一小2
年)

▼令和5年度宮城県交通
安全ポスター作文コン
クールポスターの部宮城
県知事賞 播見麻結さま
(涌中3年)、宮城県PT
A連合会長賞 齋藤萌奈
さま(涌一小2年)



▼第44回丁A共済宮城県
小中学生書道・交通安全
ポスターコンクール書道
条幅の部河北新報社賞
及川瑠菜さま(涌一小3
年)

▼第75回宮城県小・中・
高等学校児童・生徒作詞
作曲コンクール作詞の部
特選 西山明希さま(笹白
小6年)、優秀賞 浅野翔
さま(笹白小5年)、入選
平龍心さま(笹白小5年)

▼第17回東北の建築を描
く展中学校の部奨励賞
鈴木梨央奈さま(涌中1
年)

▼令和5年度「家庭の日」
絵画ポスターコンクール
生徒の部優秀賞 菅原杏
莉さま(涌中1年)

《感謝状》

10万円以上または3年
連続寄付をした人や各行
政区長から推薦された地
域の隠れた善行者を対象
に感謝状を贈呈

「寄付」

▼町行政の一助として
高善 高橋好園さま

▼福祉行政の一助として
有限会社沼館食品興業
ハンバーグレストランつ
きみち 代表取締役社長
沼館小夜子さま、山田麻
起さま

▼教育行政の一助として
有限会社台地環境企画
代表取締役 安部彰浩さ
ま、日本フカフィー株式
会社 代表取締役 金津重
哉さま、ユニ・ケア株式
会社 代表取締役社長
川浦義裕さま、石原一雄
さま、亘理常雄さま

▼地域住民の子育て支援
の一助として 新みやぎ
農業協同組合 代表理事
組合長 大内一也さま

▼町指定文化財「佐々木
家住宅」保存活用の一助
として 三機グリーン
テック株式会社 代表取
締役 高橋裕樹さま、株
式会社ウエストエネル

ギーソリユーシヨン代
表取締役社長 江頭栄一
郎さま、かみでん里山公
社 代表取締役 牟田俊一
さま、佐々木和哉さま

▼児童福祉の一助として
株式会社カツヨシ商事
メルヘンワールド涌谷店
さま

▼地域貢献活動の一環と
して 仙台トヨペット株
式会社 代表取締役社長
佐藤秀之さま(写真右)

▼子どもの学習機会創出
の一助として 有限会社
プランニング開 代表取
締役 新田新一郎さま

▼桜まつりの一助として
遠藤和夫さま

「隠れた地域の善行者」
各行政区長が推薦する
地域の善行者に感謝状を
贈呈

▼多年にわたり自治会長
を務め地域コミュニティ
の活性化および地域住民
の融和に尽力してきた功

績 砂金昭さま

▼多年にわたり地域の環
境美化および衛生環境
の向上に尽力されてき
た功績 高橋美知子さま、
佐々木仁さま(写真左)、
黒澤正雄さま



涌谷町のますますの発展を祈念し万歳三唱





除災招福・諸願成就を祈る炎の祭典

のだけさんこんぼうじ
篔岳山篔峯寺の

さいとうおごま
採燈大護摩供



護摩木を護摩壇に投じて
除災招福・諸願成就を祈願

7月13日(土)に、篔岳山石
仏広場において、天台宗の密
教の秘法とされる採燈大護
摩供が、篔峯寺の行者によつ
て厳修されました。

梅雨の中休みの晴れ間で
ありながら、気温も高温とな
らなかつたことから会場に
は、約1500人にもものぼる
大勢が来場しました。

15時に、篔峯寺の行者一行
が石仏広場に姿を現し、石仏
広場の中心に大きく積まれ
た護摩壇に火入れされました。
午前中からの好天の影響
もあり天をも焦がす勢いで
燃え上がり、会場全体を熱風
が包み込みました。

行者一行は、その熱風をも
のともせず、除災招福・諸願
成就などのさまざま願
いが書かれた、例年よりも多い
約5千本もの護摩木を、祈り
を込めながら炎の中に投じ
ていきました。

炎が落ち着き始めた17時
頃、行者の先達がまだ炎がく
すぶる中を渡り、会場をわか
せました。その後、一般来場
者が火渡りをし、祈りを捧げ
ました。





おぼろ汁

涌谷町のソウルフードが
文化庁の100年フードに認定

お盆やお彼岸などの特別な日に、涌谷町内の至る所にあった豆腐店に、ボウルや鍋を持参しておぼろ豆腐を購入し、各家庭ごとに食べられてきた涌谷町のソウルフードのおぼろ汁が、令和6年3月に、文化庁によって100年フードに認定されました。

100年フードとは、多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化・100年続く食文化として認定しているものです。

おぼろ汁は、かつては、各家庭の味・おふくろの味として各家庭ごとに親しまれてきましたが、ライフスタイルの変化とともに、調理し、食する機会が減少しつつあります。

文化庁100年フード認定を機に、改めて郷土の味を見つめ直し、その作り方を学び、我が家の味として作ってみませんか？

かつて一度消えかけた 涌谷町のおぼろ汁のための おぼろ豆腐

平成22年11月8日付けの河北新報朝刊に、涌谷町でおぼろ豆腐を製造する櫻井屋が廃業する記事が、涌谷町の郷土食・おぼろ汁の危機として掲載されました。当時、その記事を見た仙台市にある森徳とうふ店三代目の森新一さんは、同じ豆腐を製造する者として「涌谷町のおぼろ汁の火を消させはしない」と即座に涌谷町役場に連絡をし、涌谷町のおぼろ豆腐製造を受け継ぐ事業者として名乗りを上げました。



まちの豆腐屋プロジェクト

もりしんいち
森新一さん

そして、その受け皿として株式会社まちの豆腐屋プロジェクトを立ち上げ、平

成23年4月の製造開始を目指しましたが、平成23年3月に東日本大震災が発生。

震災によって工場の整備が遅れたものの平成23年5月には操業を開始することができました。

おぼろ豆腐を製造し始めて初めて迎えたその年の冬、わくや天平の湯と世代館を会場に開催された食の町民まつりにおいて、満を持して涌谷とうふ店のおぼろ豆腐のおぼろ汁を提供したところ、回収したアンケートのほぼすべての回答で「これは涌谷町のおぼろ汁ではない」という辛口の評価を受けました。

その当手を振り返り、森さんは、「アンケート結果には正直驚くばかりでしたが、涌谷とうふ店を始めた当初は、『おぼろ汁のためのおぼろ豆腐』という理解がありませんでした。町民の皆さんに意見を聞き、おぼろ汁に合うつるんとしたやわらかい食感のものをと、

数カ月間にわたり試行錯誤を繰り返しました」と苦笑します。

おぼろ汁が100年フールドに認定されたことを受け、「個店の豆腐屋の廃業が増えていた昨今ですが、涌谷とうふ店は、涌谷町のおぼろ汁に合うおぼろ豆腐をしっかりと守り続けていきたい」と次代への継承に意気込みます。

おぼろ汁のための なめらかな食感が ポイント



《写真解説》

①おぼろ汁に合う「涌谷おぼろ豆腐」は、涌谷東生産組合が栽培するミヤギシロメのみを原材料とするこだわり

②にがりと豆腐用凝固剤を独自の分量で配合し、つるんとしたやわらかい櫻井屋の食感を再現

涌谷町のおぼろ豆腐と おぼろ汁の歴史

涌谷町におぼろ豆腐が伝来したのは、幕末期に町内の曹洞宗龍淵寺二十六世大どうしんりんだいおしよ堂俊鱗大和尚が京都から当地に着任した際に、紹介したといわれています。

当時、寺の僧たちの入山前の衣服を整えるための草履脱ぎ場となっていた民家たにやにその製法とおぼろ汁の作り方を伝授し、それが町内に広まったとされます。

涌谷町に伝わるおぼろ豆腐の製法は、現在の京都の豆腐屋の製法とほとんど同じであることから、その住職が京都で修行中に会得したものと考えられます。

おぼろ豆腐は、口に入れるととろりと溶けるようで、その舌触りは滑らかなため、いかにも春のおぼろ月夜の「おぼろ」という言葉の形容に似ていることからおぼろ豆腐と名付けられたとされます。

**郷土愛を育む
郷土食の学校給食**

学校給食では、給食を通じて地域の文化を子どもたちに学んでもらうことを目的とした食育の観点から、食育月間や毎月19日の食育の日などに合わせて地場産品を使ったメニューや行事食などを提供しています。涌谷町の学校給食では、年間3回程度、おぼろ汁が提供されています。おぼろ汁の提供について涌谷町学校給食センターの尾形美穂子栄養教諭は、「おぼろ汁のレシピは、長年にわたって学校給食センターで栄養教諭が代々受け継いできたレシピに基づいて調理し、子どもたちに提供しています。郷土食の給食によって、子どもたちの涌谷町に根付く歴史や文化への理解を深めさせるとともに涌谷町に対する郷土愛を醸成することができれば幸いです」とその意義を語りま

**子どもたちにも
人気のおぼろ汁給食**

7月19日(金)、夏休み前の最後の学校給食で、おぼろ汁が提供されました。

同日、尾形栄養教諭が涌谷第一小学校に出向き、給食の時間を利用して涌谷町のおぼろ汁の文化と文化庁の100年フードに認定されたことを紹介しました。

《写真解説》

①スライドを用いておぼろ汁について紹介②おぼろ汁を作る家庭は少なくなりましたが、おぼろ汁が好きとほぼすすべての児童が挙手③7月19日に提供された給食



①



②



③

涌谷町のおぼろ汁の作り方

【材料】

おぼろ豆腐250グラム、干しいたけ(千切り)4グラム、だし汁(干しいたけのもどし汁)1000ミリリットル、みょうが(うす切り)20グラム、油揚げ(千切り)20グラム、みつば4グラム、調味料A(うすくちしょうゆ50ミリリットル、清酒30ミリリットル)しょうがのしほり汁小さじ1、水溶性片栗粉(片栗粉6グラム、水15ミリリットル)

【作り方】

1. 下ごしらえとして、干しいたけを水でもどしておき、もどし汁はだしとしてとっておく。
2. 鍋にだし汁としいたけ、油揚げを入れて煮立て、調味料Aで味をつけ、水溶性片栗粉を入れてとろみをつける。鍋底が焦げ付かないように注意しながら、2

〜3分しっかりと過熱し、しょうがのしほり汁を加えて火を止める。

3. おぼろ豆腐を網じゃくしで静かにすくいながら汁に入れる。この時、豆腐が崩れないよう注意しながら混ぜる。

4. 盛り付けた上に、みょうがとみつばをあしらいつつ完成。

【備考】

時代とともに、各家庭に馴染んできたおぼろ汁です。一例として参考にしてください。

